

当院血液透析患者における MMSE の経過と生命予後

医療法人衆和会 長崎腎病院

○宮崎沙弥香 中村麻美 白井美千代 林田征俊 丸山祐子 河津多代 久原拓哉 澤瀬健次 原田孝司
船越 哲

【目的】

当院において 2016 年と 2018 年に認知機能検査 (mini-mental state examination ; MMSE) を実施し、認知症と生命予後の関連を調査した。

【方法】

当院透析中で、2016 年 3 月時点で 65 歳以上で MMSE の実施について同意を得た 181 名に検査を実施し、2018 年 9 月に追跡可能であった 112 人に再度 MMSE を実施した。

【結果】

2016 年の結果は正常群 76 名 (平均年齢 72.1 ± 6.6 歳)、軽度認知障害 (MCI) 群は 48 名 (平均年齢 77.9 ± 6.8 歳)、認知症疑い群は 57 名 (平均年齢 80.2 ± 6.8 歳) であった。2016 年時の正常群は 2018 年に 63 名 (82.9%) が生存していたのに対し、MCI 群では 33 名 (68.8%) が生存、認知症疑い群では 22 名 (38.6%) の生存であった。生存率は、正常群と認知症疑い群、MCI 群と認知症疑い群で有意差があった。生死を目的変数とし、年齢、透析歴、性差、MMSE の 4 項目を説明変数として二項ロジスティック回帰分析を行った。年齢、透析歴、性別において有意差はなかったが、MMSE のみ有意差があった。

3 群において血清データの多重比較を行った所、2016 年と 2018 年でクレアチニンが MCI 群と認知症疑い群で有意に低下していた。

【結論】

血液透析患者における認知機能の低下と死亡率との関連が示唆された。